

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	第13回日本ナス科コンソーシアム年会 (JSOL2016)
演題名	Analysis of Tissue-reunion Process in Incised Tissue of Plants.
発表者	○ <u>Masashi Asahina</u> [1], <u>Miyuki Nakanowatari</u> [1]※, <u>Keita Matsuoka</u> [1], <u>Emi Yumoto</u> [1], <u>Kyomi Shibata</u> [1], <u>Takao Yokota</u> [1], <u>Hisakazu Yamane</u> [1], <u>Shinobu Satoh</u> [2]. [1]. Department of Biosciences, Teikyo University.[2]. Life & Environ Sci., Univ. Tsukuba. (植物生理学研究室)
内容	これまでに我々は、作物生産において土壌病害を回避する目的で接ぎ木が行われているキュウリやトマトを用いて、切断された胚軸が癒合する過程を生理学的に解析し、子葉から供給されるジベレリンが皮層の細胞分裂開始に必須であること、細胞接着に働くペクチンの合成を促進することを明らかにした。現在、トマトやイヌナズナなどにおける切断組織の癒合や接ぎ木接着時における植物ホルモンの関与・分子メカニズム解明を目指して研究を進めている。今回は、植物ホルモンの微量組織からの定量について、最新の結果を紹介した。以上の研究は、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、科学研究費補助金(若手B)による支援を受けて行ったものである。
関連画像	 <p>会場となった国際基督教大学キャンパス</p>